

令和4年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会議事録

- 日 時 令和4年7月26日(火) 午後6時00分～午後7時15分
- 場 所 いわき市医療センター 1階 きょうりつ講堂
- 出席者
- 1 委員(出席:8名)
赤津 雅美、秋元 英典、加藤 尚子、木村 千春、木村 守和、
坂本 美智子、高沢 祐三、高萩 周作
※五十音順・敬称略
※新家 利一委員は所用により欠席
- 2 事務局
新谷病院事業管理者
相澤院長
長谷川副院長兼看護部長
飯塚事務局長、藁谷事務局次長兼総合調整担当
- ・経営企画課
鈴木課長、丹野統括主幹兼課長補佐、
横山企画広報係長、新妻事務主任
 - ・総務課
酒井課長
 - ・医事課
佐藤参事兼課長、猪狩主幹兼課長補佐
 - ・施設管理課
齊藤課長
 - ・情報システム管理室
野口室長
- 配布資料
- ・(資料1) いわき市医療センター病院経営評価委員会設置要綱
 - ・(資料2) いわき市医療センター病院経営評価委員会の概要
 - ・(資料3) いわき市医療センターの概要
 - ・(資料4) 持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインについて
 - ・(参考資料1) いわき市病院事業中期経営計画(2021～2024)
 - ・(参考資料2) 公立病院経営強化ガイドライン(本文)
 - ・いわき市医療センター病院経営評価委員会委員名簿

1 開会

2 委嘱状交付

新谷病院事業管理者から委員に委嘱状が交付された。

3 病院事業管理者挨拶

4 出席者紹介

5 委員長及び副委員長の選出

いわき市医療センター病院経営評価委員会設置要綱第5条第1項の規定により、委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により選出することを説明したところ、委員から事務局案の提示を求められたため、委員長に「加藤尚子委員」、副委員長に「高萩周作委員」を提案し、満場一致で承認された。

6 議事

(1) 会議開催形式等について

① 会議の公開・非公開について

会議は、原則公開とした。ただし、議事内容に非公開とすべき案件が含まれている場合は、必要に応じ会議の冒頭でその都度決定していくこととした。

② 議事録について

議事録の作成方法は、「要点記録方式」とした。

③ 資料等の公表について

会議で使用する資料は、市ホームページに掲載することとした。ただし、資料に非公開とすべき情報が含まれる場合には、個別に対処することとした。

(2) 説明事項

① 病院経営評価委員会の概要について

事務局から、資料2「いわき市医療センター病院経営評価委員会の概要」に基づき、説明した。

② 医療センターの概要について

事務局から、資料3「いわき市医療センターの概要」に基づき、説明した。

③ 公立病院経営強化ガイドラインの概要について

事務局から、資料4「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインについて」に基づき、説明した。

7 その他

第2回の委員会は、来年1月頃に開催予定であることが事務局より報告された。

[質疑等]

(委員A)

急性期医療や三次救急については、医療の効率性とは真逆の位置にあり、救急車が来ない状況でも、万全の医療対応ができる準備をしておく必要がある。

一方で、少しでも急性期医療等を持続可能な体制にするため、最近では「医療経済学」という視点が注目されている。万全の良い治療を提供するためにはお金がかかるものであり、例えば診療報酬の点数設定上、やればやるほど赤字となってしまう手術が実際にあるが、これは持続可能な医療とは言えない。医療の質を下げずに、医療経済を考えて、持続可能な医療を提供していくには、医師が常に「医療と経済」を念頭に置きながら診療に取り組むことが非常に大事だと思われる。

最も無駄のない効率的な治療法を考えるために、あるいはせつかく良い医療を提供しても請求漏れで収入が入ってこないことを防ぐために、研修医の頃から医療経済について学ぶ場を作るべきだと思うが、皆様いかがか。

(委員B)

コストパフォーマンスという視点はとても大事だが、医療の現場や、特に学生レベルではこれに関する教育が出来ていないのが現状であると認識している。ご提示いただいた問題は、世界的な潮流の中で言われているSDGsやサステナブルとも繋がるかと思うが、特に研修医の先生方への医療経済や医療マネジメントに関する研修はどのように行われているのか。

(事務局)

医師の多くは、教育体系的に医療経済に関する勉強などはしていないと思う。個人的には、初期研修医の頃に「お前は給料がどういう形で支払われているのか知っているのか」と当時の診療科の部長から言われたことがあり、我々の診療行為に基づいてレセプトが作成され、それが診療報酬として病院に入金となり給料が支払われると教わったが、医学生の頃はそうした仕組みについて考えたことはなかった。ご指摘のとおり、研修医の頃から、どのような仕組みで医療経済が回っているのかをきちんと理解することは大切なことだと思う。

医療資源が限られている中であって、いかに効率的に診療していくかを考えると、「クリニカルパス」は非常に有効な手段の一つだと考えている。

委員からご指摘のあった、やればやるほど赤字となる手術に関する点数設定については、所属学会で要望するなど、より適切な点数設定となるよう各医師が考えていく必要がある。

研修医については、交通事故や労災の請求の仕組みも含め、診療報酬制度について勉強していくべきと考えている。

8 閉会